

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1121 環境と食糧			開講形態 (隔週偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	火曜5限				
教室	D204教室				
代表教員	清水 雅貴				
担当教員	清水 雅貴				
テーマと到達目標	日本における農林水産業の現状や食糧問題について、特に環境の側面から読み解くことを本授業の目的とする。具体的には、「食の安全・安心」や「地産地消」、「フードマイレージ」などのキーワードから、日本における食糧問題と環境問題との関係性について考えていく。				
概要	授業では、「食の安全・安心」や「地産地消」、「フードマイレージ」、「食糧自給率」、「耕作放棄」などのキーワードから日本の農林水産業の現状について講義する。さらに、環境問題の側面から農林水産業が担う役割や問題点、その解決方策について理解を深める。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	ガイダンス（環境と食糧への招待）				対面授業
第2回	環境問題と食糧問題				対面授業
第3回	日本の食糧事情①（指標からみる食糧問題）				対面授業
第4回	日本の食糧事情②（農産物貿易と食品産業）				対面授業
第5回	環境をめぐる世界と日本の姿				対面授業
第6回	大規模災害と環境・食糧問題				対面授業
第7回	日本の農業と政策①（我が国における農業の実態）				対面授業
第8回	日本の農業と政策②（食料政策）				対面授業
第9回	日本の農業と政策③（農村政策）				対面授業
第10回	日本の農業と政策④（これまでの農業政策と今後の展開）				対面授業
第11回	食糧をめぐる環境問題①（地球温暖化対策としての農業・食料）				対面授業
第12回	食糧をめぐる環境問題②（環境配慮型農業の進展）				対面授業
第13回	農山漁村と再生可能エネルギー				対面授業
第14回	里山創生（身近な環境と食糧）				対面授業
第15回	授業のまとめ・総合討論				対面授業
成績評価の基準	毎回授業で実施する出席確認兼コメントペーパーまたは小テストの提出（約40%）と期末レポート（約60%）により評価する。				
履修にあたっての留意事項	<p>(1) 授業の連絡事項は「和光ポータル>クラスプロファイル>授業ページ>掲示」でおこなう。(2) 授業資料の配布は「和光ポータル>クラスプロファイル>授業ページ>授業資料」でおこなう。</p> <p>(3) この授業は、実務経験のある教員による授業です。農業をめぐる環境問題に関する国や自治体の政策、農家の環境対策に対するコンサルタント業務の経験から、環境問題や食糧問題の解決に向けての具体的な方策について事例を挙げながらわかりやすく授業をおこなう。</p>				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書	適宜、指定する。	教科書(ISBN)	
参考文献	佐土原聰ほか編著(2011)『里山創生：神奈川・横浜の挑戦』創森社	参考文献(ISBN)	佐土原聰ほか編著(2011)『里山創生：神奈川・横浜の挑戦』創森社